花華はな

花よりダンゴ」なんて言葉もあるけど、
美しい花を眺めるとリラックスできるし、
心もなごむ。散策しながら、
花言葉でも口ずさんでみよう。

【キクの電照】
キクは、需要の多い冬から春にかけて出荷するために夜の間、電気の光を植物体に当てる。
花が咲くのを遅らせて開花調整する。
その夜景の美しさは格別である。まるで光のじゅうたん。
南国の冬の夜、灯りの乏しい農村の中忽然と現れる敷きつめられた輝くじゅうたんをドライブで楽しむのもおつなものだ。

【キクの収穫】
植物には、春から夏にかけて花の咲く（日が長くなると開花する）長日植物と、反対に盛夏から秋にかけて花の咲く（日が短くなると開花する）短日植物がある。県内のキク栽培は短日性の強い秋ギクを用いているが、植付時期は7月下旬（11月出荷の場合）から1月上旬（5月出荷）だ。秋から冬にかけての植付なので日が短く、植えただけにすると草丈が10cmぐらいですぐに花が咲いてしまい、商品にならない。そこで夜間に電照を行ない日が長いように植物に感じさせ、開花させないようにし、50cm程度の大きさまで育て、その後消灯し花を咲かせる。この電照栽培により気候の温暖な沖縄では冬場に露地栽培で花を咲かせることや、咲かせる時期を調節することができる。他府県のキクの少ない季節に生産・出荷され、切り花生産は、愛知県に次ぐ第２位の産地となっている。主な産地；伊江村、今帰仁村、名護市、具志川市

【デンファレ】
モダンな感覚をもつ花で、色も純白から淡桃色、淡緑色など変化に富む。
花束やブーケ、コサージュなど、色々な用途に使われる。
主な産地：糸満市、名護市、本部町、具志川市

【ヘリコニア】
中央アメリカ、南アフリカの熱帯地方に分布する多年草で、植物学的にはバナナに近い。
ヘリコニアには花の形が違う何種類かがある。
株の中心から茎を伸ばし、その先端に赤・オレンジ・黄色系の花をつける。日当たりの良い高温多湿の環境を好むトロピカルな花だ。
主な産地：名護市

つくる 農業生産 花き

亜熱帯の気候と豊かな自然環境に恵まれた沖縄県では、1年中色とりどりの花がみられる。散歩の途中では、ブーゲンビレア、ハイビスカスなど色鮮やかな花々が目に映る。
又、春を告げる桜前線は全国一早く沖縄からはじる。
このような恵まれた気候条件と、農家の意欲的な取り組みにより、沖縄県の花き生産は飛躍的な発展を遂げてきた。
本土復帰後の昭和49年頃から菊の切り花栽培が始まり今では愛知県に次いで全国第２位の生産県になっている。
ぜひおすすめなのが、秋から冬にかけての露地電照菊栽培の夜景だ。静けさのなか、光のじゅうたんの風景は圧倒される。

【アンスリウム】
花ことばは、「炎のような輝き」。
ここで、ちょっといじわるな質問をひとつ。「アンスリウムの花はどーこだ」答えは 黄色い円柱部分」。写真のような赤やオレンジの花色が有名だが、ピンクやグリーンもある華やかな熱帯アメリカ原産の花である。
フラミンゴの立ち姿に似ていることからＦｌａｍｉｎｇｏ ｆｌｏｗｅｒとも呼ばれる。

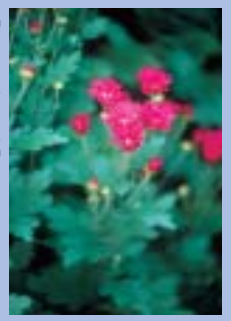
【ブーゲンビレア】
花ことばは「情熱」。
エキゾチックな雰囲気の夏の熱帯花木の代表選手。

【ソリダゴ】

【アレカヤシ】

【オオタニワタリ】

【ストレリチア】

【草花鉢物】

【ギク（みやび）】